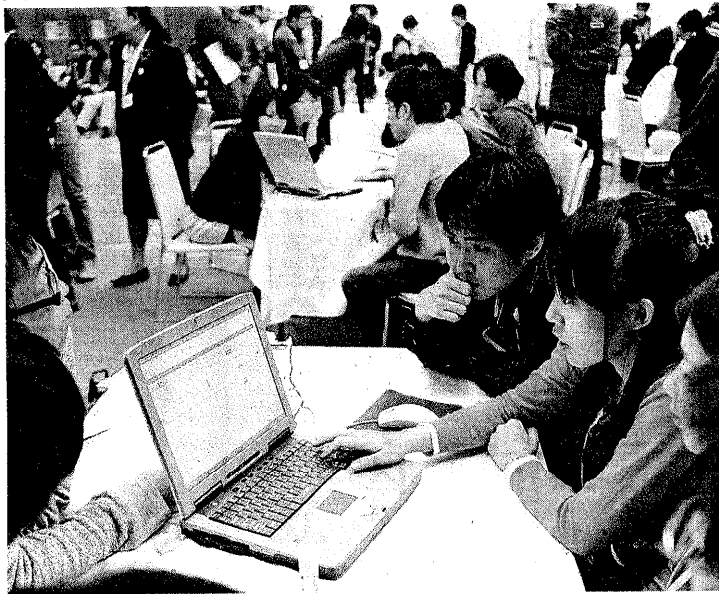


# 圭陵会FAXニュース

発行所:岩手医科大学圭陵会  
 発行人:石川 育成  
 編集人:酒井 明夫  
 連絡先:TEL019-624-8386  
 :FAX019-624-8380  
 e-mail :info@keiryokai.gr.jp

## 第7号内容

- ・医学生研修74人希望
- ・岩手医大ら12病院の連携指導体制に高い評価
- ・乳がん治療 拠点病院と開業医 診療記録共有
- ・岩手医大で県内初導入



真剣な表情で論文の検索などを行う研修医たち。本県を研修先を選ぶ医学生が増えている二八幡平市・ホテル安比グランド

# 医学生研修74人希望

## 2年連続で最多

県の初期臨床研修医合同オリエンテーション第2日は3日、八幡平市のホテル安比グランドで「根拠に基づいた医療」の講演などを行った。2010年度から2年間で、県内で初期臨床研修を行う研修医は69人。医学生が研修病院を選ぶ「マッチング(組み合わせ数)」段階では、2年連続で過去最高となる74人が内定した。県内12病院が連携した「いわてイーハトーヴ臨床研修病院群」の指導体制が、全国の医学生から高く評価されている。

【特集1213面、関連記事21面】

## 指導体制に高い評価

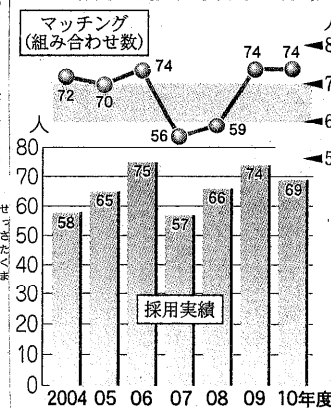
県医師支援推進室によると、10年度のマッチング内定者は昨年と同じ74人で、04年の新臨床研修制度導入以来最高を記録した。その後、医師国家試験不合格者の辞退やマッチング以外での研修決定などで人数が変動し、69人が研修を始めた。

出身地は本県が35人、宮城県8人、京都府、大阪府、愛知県、島根県各1人など。病院別では県立中央病院が19人、同中部病院9人、同胆沢、同磐井、岩手医大の各病院が8人など。県内病院を研修先に



本 県

県内臨床研修医採用の推移



選ぶ医学生増加の背景には、県立中央など県立9病院と岩手医大、盛岡赤十字、北上済生会の計12病院が連携した「いわてイーハトーヴ臨床研修病院群」への評価が挙げられる。同病院群は、各病院の指導医が緊密に連携し、都市部の病院に負けない研修環境を実現している。

新臨床研修制度では、医学生はマッチング制度を活用し初期研修病院を全国の病院から原則自由に選べる。この結果、研修医が都市部の病院に集中する一方、本県など地方の大学医局の医師が激減。医局に医師派遣を

頼っていた県立病院などは深刻な医師不足となった。そこで県は各病院と連携し、初期臨床研修医の誘致に力を入れている。大阪府枚方市の関西医科大学大枚方病院総合診療科の河本慶子医師は「単独の病院では独りよがりの研修プログラムになりがちだが、岩手は病院間の連携と充実にも連携して取り組み、岩手で学んだ医師たちの一層の定着を図る」と話す。

今回の「臨床研修医合同オリエンテーション」の報道から、タイトルを「ズームアップ いわて」に改称します。

# 乳がん治療細やかに

## 拠点病院と開業医診療録共有

手術後もケアが必要な乳がんの治療で、岩手医大は今年から、手術した拠点病院と地元の開業医が、あらゆる診療記録を一つのファイル(パス)で共有するシステムを県内で初めて導入した。「地域連携クリニックパス」と呼ぶ方式で、盛岡での連携をモデルケースに今後、県内の医療圏ごとにネットワークを広げていく計画だ。医師不足の中、医療の効果的な役割分担が進むことが期待される。

乳がんは女性が最もかかりやすいがんで再発防止のために長期間のケアが必要とされる。しかし、拠点病院と開業医の連携は進んでいないため、患者は定期検診でも拠点病院に行くなど集中しがちだった。

「がん対策推進基本計画」に明記されているが、全国的にも進んでいる都道府県は少ない。乳がんが成功すれば、ほかのがん治療にも転用が期待できるとして、医療関係者の関心は高い。

旗振り役の同大外科学講座の柏葉匡寛講師は「乳がんは急性期治療がしつかりすれば、日常に戻りやすい。(拠点病院と地元開業医の)2人の主治医がいると考えると、ほかにえれば」と話している。

患者にとっても、地元で安心して問診や検査が受けられれば通院の負担が減り、きめ細やかな診療を受けられる。

パスには、診療計画が記載され、医師が、発症から手術記録、術後の経過、投薬のほか、問題発生時の対処法や留意点を書き入れていく。共同診療計画表や医療機関の「役割分担表」で構成されている。

患者は、医大など拠点病院での手術や放射線治療などの急性期治療を終えた時点で退院し、開業医への通院に切り替える。

最新の医療情報を手でできるメリットがあり、医大の呼びかけに、第一弾として盛岡市の「プレスト斉藤外科クリニック」が17日に提携に同意した。今後、提携先を増やし、将来的に医療圏ごとの連携ネットワークの整備を目指す。

導入の背景には、乳がんを患う女性の急増がある。新規の患者は2004年、全国で5万人を超えた。一方、県の乳がん専門医は8人しかおらず、全国的に見ても少ない。

同様のパスは、脳疾患などで一部導入されている。がん治療への適用は、国が07年に閣議決定した

H22.4.20 読売新聞

<http://www.yomidr.yomiuri.co.jp/page.jsp?id=23779>

### 圭陵会FAXニュース

圭陵会広報局では会員の相互理解を深めるために、岩手医科大学内の情報を`圭陵会FAXニュース`として配信致しております。圭陵会支部長におかれましては、圭陵会会員への情報連絡をお願いします。なお、圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。

圭陵会ホームページアドレス <http://www.keiryokai.gr.jp/>